



みんなであげよう！
応援しよう！

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

東京オリンピックまで
あと **88**日

3月13日（土）西部総合公園体育館で、将来を担う子供たち等がオリンピック・パラリンピアンと直接ふれあうことで未来への夢や希望を抱く機会とすること、またスポーツに対する関心や意識を高め、東京2020大会の機運を醸成することを目的に「オリンピック・パラリンピアン交流体験会 & みんなのスポーツフェスティバル」を開催しました。市民等約100人が参加し、オリンピック・パラリンピアンとの交流のほか、親子ズンバ教室、スラックラインやフライングディスクなどの体験会を実施しました。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回のイベントは、参加者を事前申込制で、市内在住・在勤・在学者に限定して、検温・消毒等を徹底して実施しました。

3/13 ~東京オリパラレガシー創出事業~ オリンピック・パラリンピアン交流体験会

西部総合公園 体育館（メイン・サブアリーナ）



2016リオデジャネイロオリンピック バドミントン競技ダブルス 金メダリスト高橋礼華（あやか）さんのバドミントン体験 & トークショー

講師プロフィール

1990年生まれ。奈良県橿原市出身。母の影響で6歳からバドミントンを始め、聖ウルスラ学院英智中学校（宮城県）へ入学。同高校時代に1学年後輩の松友美佐紀選手とダブルスのペアを組み、インターハイダブルスなどで優勝。2009年に日本ユニシス株式会社へ入社し、引き続き松友選手とのダブルスで着実に実績を積み上げ、全英オープンをはじめとする国内外の大会で優勝し、日本人初の世界ランキング1位を獲得。そして、2016年リオデジャネイロオリンピックでは日本バドミントン史上初となるオリンピックでの金メダルを獲得するなど、数々の金字塔を打ち立てた。2020年現役を引退。

▲オリンピック高橋礼華さん

オリンピックの高橋礼華さんを講師に、初心者から経験者まで幅広い年齢層の男女22組44名の参加者を対象にトークショーとバドミントン教室を実施しました。トークショーでは、小学校の持久走大会で6年連続1位、家の中で遊ぶよりも外で遊ぶ方が好きという幼い頃のエピソードのほか、中学1年生から親元を離れ、バドミントンの練習に打ち込んだ学生時代について紹介し「自分がどうしてもやりたかったバドミントンの道を歩ませてくれた、応援してくれた親にとっても感謝している」と話しました。また、高校時代のタカマツペア結成秘話や日本人初の快挙であったリオデジャネイロオリンピック金メダルまでの軌跡について「相手に圧倒されている時には、どうやれば力が出せるのか、前向きにひとつひとつ考えることが大事」と貴重な体験談を熱く語りました。



▲指導する高橋さん



▲バドミントン教室の様子



▲金メダリストとペアでミニゲーム

バドミントン教室では、高橋さんと市バドミントン連盟会員によるデモンストレーション後、初めてラケットを握る子供たちに持ち方や打ち方のほか「強く早い球を打つには足の動きが大切」などの指導がありました。また、バドミントン経験のある参加者に対しては、プレーする姿を見ながらメダリストである高橋さんから直接アドバイスが送られました。最後のミニゲームでは、高橋さんとパートナーを組み対戦するなどのオリンピックとの夢のような時間を過ごしました。

参加者からは「オリンピックと同じ空間・コートと一緒にバドミントンができてうれしかった」「金メダリストのアドバイスを受ける機会は滅多にないので、とても参考になり、オリンピック開催に興味わいた」「子供たちの経験と視野を広げることができた良い体験でした」という感想がありました。



▲高橋さんからアドバイスを受ける参加者



▲参加者全員で記念撮影

2016リオデジャネイロパラリンピック 走り幅跳び銀メダリスト・4×100mリレー銅メダリスト 山本 篤（あつし）さんの陸上教室 & トークショー

講師プロフィール

競技：走り幅跳び/100m クラス/T63（片大腿切断）

1982年生まれ。静岡県掛川市出身。小学校では野球、中高ではバレー部に所属。高校2年のバイク事故により、左足の大腿部を切断。進学した義肢装具士専門学校で競技用義足に出会い、陸上を始める。大阪体育大学体育学部へ入学し陸上部に所属。2008年スズキ株式会社へ入社。同年北京パラリンピックから3大会連続出場。2016年5月当時の世界記録（走り幅跳び）を更新。2016年リオデジャネイロパラリンピックでは走り幅跳びで銀メダル、4×100mリレーで銅メダルを獲得。2018年の冬季パラリンピックスノーボード競技に日本代表として出場。2019年世界パラ陸上競技大会走り幅跳びで銅メダルを獲得し、本年開催される東京パラリンピック出場が内定している現役アスリート。走り幅跳びの自己記録は日本記録にもなっている6m70cm。



▲パラリンピアン山本篤さん

パラリンピアン山本篤さんから、小学生18名を対象に、生い立ちからパラリンピックに出場しメダリストになるまでの思いを話していただいたほか、現役のトップアスリートが教える陸上教室を行いました。山本さんは、高校時代に交通事故で左足を失ったときのことを「とても気持ちが落ち込み苦しかったが、将来、何が自分のできるのかを考えたほうがワクワクすると思う、自分の好きなスポーツをやっていくと決心した」と前を向きすむむことの大切さを子供たちに語りました。

陸上教室では、速く走るための基本動作について山本さんが指導しながら「走ることは全てのスポーツの基本。しっかり前を向いて、背筋を伸ばすことが正しい姿勢」とアドバイスしました。子供たちからの「陸上をしていて楽しかったことは何ですか？」との質問では、「記録が伸び、タイムが速くなること」と答え、最後に「みんなには目標があると思うが、自分の好きなことに夢中になってほしい。そうすれば目指すものが必ず見つかる」とメッセージを送りました。

参加した小学生からは「楽しくて、もっと一緒に走りたかった」「走り幅跳びで遠くへ跳べるようになりたい」「東京パラリンピックでは山本さんを応援したい」などの声がありました。



▲競技用義足を説明する山本さん



▲参加した小学生全員で記念撮影



▲陸上教室で子供たちと一緒に走る山本さん

みんなのスポーツフェスティバル

西部総合公園 体育館
（トレーニングルーム・サブアリーナ）

「オリンピック・パラリンピアン交流体験会」と同日開催で、2年ぶりに「みんなのスポーツフェスティバル」を開催しました。

【親子ズンバ教室】

ズンバとは、ラテンを中心に世界中のダンス音楽を取り入れて作られたフィットネスダンスであり、ズンバインストラクターの草間裕子氏にご指導いただきました。参加者も初めて体験する方も多く、とまどった様子が見られましたが、慣れてくると親子で楽しそうに体を動かしていました。



▲親子ズンバ教室

【スラックライン・障害者フライングディスク体験会】

サブアリーナで、スラックラインと障害者フライングディスクの2種目の体験会を行いました。

スラックラインは、幅5cmほどのベルトの上で自由にパフォーマンスするスポーツで、スラックラインインストラクターの大森泰典氏（市スポーツ推進委員）の指導のもと、子供も大人も果敢に挑戦している様子が見られました。

障害者フライングディスクは、誰でも親しめるニュースポーツであり、未就学児の子供たちも意欲的に取り組み、ディスクが的に当たると「できた！」と嬉しそうな笑顔が見られました。最後に、ご協力いただいた茨城県障害者フライングディスク協会の皆様から、年代別でゲームの上位者へメダルが贈呈され、参加者全員で万歳三唱をして、お互いを称え合いました。

本市は、今年開催される東京2020大会に向け、パラオ共和国のホストタウンとしてより一層の友好交流促進のほか、オリンピック・パラリンピアンと市民の皆さまとの交流を通じたスポーツ振興により、東京オリンピック・パラリンピック競技大会によるレガシー創出に今後も努めてまいります。